

2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月10日
上場取引所 東

上場会社名 日本特殊塗料株式会社
 コード番号 4619 URL <https://www.nttoryo.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 遠田 比呂志
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員業務本部 財務部長兼総務部長 (氏名) 力武 洋介 (TEL) 03-3913-6134
 四半期報告書提出予定日 2021年11月12日 配当支払開始予定日 2021年11月26日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	25,085	24.9	141	—	778	—	118	—
2021年3月期第2四半期	20,091	△30.2	△821	—	△578	—	△563	—

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 1,868百万円(—%) 2021年3月期第2四半期 58百万円(△96.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	5.44	—
2021年3月期第2四半期	△25.60	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	76,330	48,337	56.9
2021年3月期	75,502	47,154	56.4

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 43,424百万円 2021年3月期 42,566百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	17.00	—	21.00	38.00
2022年3月期	—	18.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	22.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	55,000	14.6	1,100	28.1	1,950	△18.9	850	△34.7	39.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期2Q	23,611,200株	2021年3月期	23,611,200株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	1,889,474株	2021年3月期	1,905,857株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期2Q	21,709,758株	2021年3月期2Q	22,007,372株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におきましては、国内外で新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、経済活動正常化、景気回復が期待される一方、感染症再拡大への懸念に加え、原材料価格や輸送費の上昇、世界的な半導体不足による生産活動への影響は想定以上に大きく、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、徹底した感染症拡大防止策を講じながら、効率的な営業活動による売上規模の確保・拡大、デジタル技術の活用推進等による収益基盤の強化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、250億8千5百万円（前年同期比24.9%増）と前年同期比では大きく回復いたしました。

損益面につきましては、継続的な原価低減活動・経費低減策を推進したものの、原材料価格高騰等の影響を受け、営業利益は1億4千1百万円（前年同期は営業損失8億2千1百万円）、経常利益は7億7千8百万円（前年同期は経常損失5億7千8百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億1千8百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失5億6千3百万円）にとどまりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

[塗料関連事業]

国内需要は回復基調にあることから、主力製品の防水材を中心に建築・構築物用塗料の販売は前年同期比で順調に推移し、工事関連売上上の集合住宅大規模改修工事につきましては、前年同期比で144.3%増と大きく増加いたしました。この結果、当セグメントの売上高は90億4千8百万円（前年同期比42.8%増）となりました。

損益面では、原材料価格高騰等の影響があったものの、売上高の回復を受け、セグメント利益は1億6千4百万円（前年同期はセグメント損失6千4百万円）となりました。

[自動車製品関連事業]

世界的な半導体不足に加え、アセアン地域での新型コロナウイルス感染症拡大の影響等から、自動車の生産台数は当初計画を下回っており、当セグメントの売上高は160億2千9百万円（前年同期比16.6%増）にとどまりました。

損益面では、原価低減活動・経費低減策を進めたものの、短期的な売上高減少、原材料価格高騰等の影響から、セグメント損失は2千6百万円（前年同期はセグメント損失7億6千1百万円）となりました。

[その他]

保険代理業の売上高は7百万円（前年同期比2.0%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ8億2千8百万円増加し、763億3千万円となりました。主な要因は、仕掛品の増加13億6千4百万円、有形固定資産の減少14億9千3百万円、投資有価証券の増加8億9千4千万円によるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ3億5千4百万円減少し、279億9千3百万円となりました。主な要因は、電子記録債務の減少2億9千3百万円、借入金の減少1億8千8百万円によるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ11億8千2百万円増加し、483億3千7百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少3億7百万円、為替換算調整勘定の増加8億1百万円によるものです。この結果、自己資本比率は0.5%増加し56.9%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ4億3千9百万円増加し、69億5千7百万円となりました。

営業活動による資金は、25億1千1百万円の収入（前年同期比24億6千2百万円の増加）となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益8億7千6百万円、売上債権の減少額16億8千5百万円、利息及び配当金の受取額6億5千5百万円によるものです。

投資活動による資金は、12億2千2百万円の支出（前年同期比21億4千6百万円の増加）となりました。この主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出13億1千6百万円によるものです。

財務活動による資金は、10億1千5百万円の支出（前年同期比27億1千7百万円の減少）となりました。この主な要因は、長期借入金の返済による支出7億7千9百万円、非支配株主への配当金の支払額3億2千5百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期通期の連結業績予想につきましては、原材料価格高騰等の影響を含む外部環境や最近の業績動向を踏まえ、2021年5月12日に公表しました業績予想を、以下のとおり修正いたします。

なお、この業績予想は、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の根拠に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

〔通期の連結業績予想〕

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	54,700	2,000	3,700	2,400	110.57
今回修正予想 (B)	55,000	1,100	1,950	850	39.15
増減額 (B - A)	300	△900	△1,750	△1,550	
増減率 (%)	0.5	△45.0	△47.3	△64.6	
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	48,004	858	2,403	1,301	59.27

〔セグメント別業績予想〕

	売上高	セグメント利益
	百万円	百万円
塗料関連事業	18,200	250
自動車製品関連事業	36,800	850

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,535	6,975
受取手形及び売掛金	11,093	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	10,523
電子記録債権	3,102	2,975
商品及び製品	1,392	1,659
仕掛品	417	1,781
原材料及び貯蔵品	1,179	1,339
未収還付法人税等	167	60
その他	1,529	998
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	25,414	26,308
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,855	8,705
機械装置及び運搬具（純額）	8,751	8,246
土地	4,710	4,710
建設仮勘定	2,509	2,431
その他（純額）	2,192	1,431
有形固定資産合計	27,018	25,525
無形固定資産		
その他	1,244	1,264
無形固定資産合計	1,244	1,264
投資その他の資産		
投資有価証券	18,762	19,657
長期貸付金	1,410	1,421
繰延税金資産	129	139
その他	1,571	2,066
貸倒引当金	△50	△52
投資その他の資産合計	21,824	23,232
固定資産合計	50,087	50,022
資産合計	75,502	76,330

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,164	7,032
電子記録債務	3,250	2,956
短期借入金	5,608	6,093
リース債務	6	6
未払法人税等	238	267
役員賞与引当金	102	—
その他	3,405	3,561
流動負債合計	19,775	19,918
固定負債		
長期借入金	3,667	2,993
リース債務	12	13
退職給付に係る負債	3,520	3,475
繰延税金負債	1,260	1,485
その他	111	106
固定負債合計	8,571	8,075
負債合計	28,347	27,993
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,753	4,753
資本剰余金	4,190	4,183
利益剰余金	30,064	29,757
自己株式	△1,119	△1,110
株主資本合計	37,888	37,583
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,149	5,526
為替換算調整勘定	△636	164
退職給付に係る調整累計額	165	150
その他の包括利益累計額合計	4,677	5,840
非支配株主持分	4,588	4,912
純資産合計	47,154	48,337
負債純資産合計	75,502	76,330

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高	20,091	25,085
売上原価	16,766	20,580
売上総利益	3,324	4,504
販売費及び一般管理費	4,145	4,362
営業利益又は営業損失(△)	△821	141
営業外収益		
受取配当金	123	108
持分法による投資利益	—	345
雇用調整助成金	105	22
その他	98	216
営業外収益合計	327	692
営業外費用		
支払利息	26	48
為替差損	9	—
持分法による投資損失	40	—
その他	7	6
営業外費用合計	84	55
経常利益又は経常損失(△)	△578	778
特別利益		
固定資産売却益	7	5
受取保険金	—	0
投資有価証券売却益	—	138
特別利益合計	7	144
特別損失		
固定資産処分損	42	46
特別損失合計	42	46
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△613	876
法人税等	△140	398
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△473	478
非支配株主に帰属する四半期純利益	90	360
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△563	118

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△473	478
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	938	372
為替換算調整勘定	△200	464
退職給付に係る調整額	12	△18
持分法適用会社に対する持分相当額	△218	571
その他の包括利益合計	532	1,390
四半期包括利益	58	1,868
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	63	1,281
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	587

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△613	876
減価償却費	1,790	1,559
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△5	△70
受取利息及び受取配当金	△153	△170
支払利息	26	48
持分法による投資損益(△は益)	40	△345
固定資産売却損益(△は益)	△7	△5
固定資産処分損益(△は益)	42	45
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△138
受取保険金	—	△0
売上債権の増減額(△は増加)	2,256	1,685
棚卸資産の増減額(△は増加)	196	△748
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,449	△706
その他	△942	174
小計	183	2,206
利息及び配当金の受取額	351	655
利息の支払額	△40	△48
保険金の受取額	—	0
法人税等の支払額	△452	△512
法人税等の還付額	6	210
営業活動によるキャッシュ・フロー	48	2,511
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△2,253	△1,316
有形及び無形固定資産の売却による収入	9	8
投資有価証券の取得による支出	△3	△4
投資有価証券の売却による収入	—	177
貸付けによる支出	△1,058	—
その他	△63	△87
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,369	△1,222
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,088	549
長期借入金の返済による支出	△803	△779
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△465	△456
非支配株主への配当金の支払額	△18	△325
その他	△98	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,702	△1,015
現金及び現金同等物に係る換算差額	△45	165
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,663	439
現金及び現金同等物の期首残高	7,964	6,518
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,300	6,957

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下の通りです。

・金型取引

一定の期間にわたって顧客から回収する金型関連費用については、従来は当該期間に応じて売上高と売上原価を計上していましたが、特定の要件に該当する場合には、一時点で売上高と売上原価を計上する方法に変更しております。

・顧客に支払われる対価

顧客に支払われる対価である売上りべートについては、従来は販売費及び一般管理費として処理する方法によっていましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。

・買戻し契約

当社グループが支給元となる有償支給取引については、従来は有償支給した支給品について消滅を認識していましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。また、従来は支給先から受け取る対価を収益として認識していましたが、当該収益を認識しない方法に変更しております。さらに、当社グループが支給先となる有償受給取引については、従来有償支給元への売り戻し時に売上高と売上原価を計上していましたが、加工代相当額のみを純額で収益として認識する方法に変更しております。

・代理人取引

顧客への販売における当社グループの役割が代理人に該当する取引について、従来顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していましたが、当該対価の総額から第三者に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の期首残高が32百万円増加しております。また、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の売上高が254百万円減少し、売上原価が228百万円減少し、販売費及び一般管理費が29百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益がそれぞれ4百万円増加しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法による組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	塗料関連	自動車 製品関連	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,334	13,749	20,083	7	20,091	—	20,091
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	—	1	—	1	△1	—
計	6,336	13,749	20,085	7	20,093	△1	20,091
セグメント利益又は損失(△)	△64	△761	△825	4	△821	—	△821

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業であります。

2 調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	塗料関連	自動車 製品関連	計				
売上高							
外部顧客への売上高	9,048	16,029	25,077	7	25,085	—	25,085
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1	—	1	—	1	△1	—
計	9,049	16,029	25,079	7	25,086	△1	25,085
セグメント利益又は損失(△)	164	△26	138	3	141	—	141

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業であります。

2 調整額は、セグメント間取引消去によるものであります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「収益認識に関する会計基準」等を適用しております。この結果、従来の方法によった場合と比べて、塗料関連の売上高は102百万円減少し、セグメント利益に与える影響はありません。自動車製品関連の売上高は151百万円減少し、セグメント損失が4百万円減少しております。